

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

日本にいながら多くの外国人と接することができる京都が素敵と思ったのと、教育理念が自分に合っていると思い決めました。また、オープンキャンパスの時に参加した体験講座がとても興味深く同志社女子大学で学びたいと思うようになりました。

- (2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

何から手をつければいいのかわからなかったのと、とにかく英単語をやりました。あとは、授業や定期テストの勉強をしっかりとやり、同志社女子大学の過去問を見て出題傾向を分析したりしました。過去問の分析をしていたので、英単語を覚える時は、同じ意味や似た意味の単語を意識してやるようにしました。

〔夏休み〕

学校の補講があったので夏休みの前半はほとんど学校に行っていました。補講の空き時間に図書室で勉強したり英文法の分からない問題を先生に聞きにいったりしました。この頃から古文単語、イディオムにも力を入れ始め、暗記系を徐々に覚えていきました。覚えた単語の意味は黒塗りにして、何度も繰り返しやりました。夏休みの時点で公募推薦に目標を定めていたので英語、古文、評論を中心に勉強していました。

〔2学期～入試直前〕

過去問を解き始めましたがまだまだ基礎が固まっていけないことを痛感し、もう一度基礎をやり直しました。公募推薦まで2ヶ月弱しかなかったこともあり、このままで大丈夫かなと不安になることもありましたが、10月に入試対策講座に参加したことで、今まで伸び悩んでいた評論で過去問が解けるようになり英語の4択問題では、選択肢を選んだ理由を考えて解くことができるようになりました。入試対策講座に参加して以降は入試直前まで、入試対策講座で学んだことを実践しながらひたすら過去問と英文法をやりました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

基本的に日付が変わる前には寝ていたので、体調を崩すこともなく学校の授業にも集中して取り組むことができました。テレビは見たい番組を録画して朝、学校の支度を終った合間に見るようにしていました。スマホは英単語や日本史、古文単語のアプリを入れてスキマ時間にゴツゴツやっていました。また、受験期間に不要と思われるアプリは全て削除し、勉強に集中するようにしていました。スランプになった時は、友達に相談したり、その教科からは少し離れて他の教科の勉強に力を入れるようにしました。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

いろいろな大学を見て、自分が本当に行きたいと思った大学なら勉強がわからなくても、多少成績が伸びなくてもおぼれることなく最後までがんばってください。がんばった分、志望校に合格した時の喜びと達成感はとても大きいです。みなさんが志望校に合格できるよう応援しています😊